

武蔵野日記

(4月22日～5月24日)

発行人 社会福祉法人武蔵野
武蔵野市吉祥寺北町4-11-16
0422(54)7666

6月1日現在 職員総数311名

セルフ・カウンセリング ～真実へと歩いているかい～

高齢者支援部門統括施設長 阿部 敏哉

夜明け過ぎ、朝一番のラジオ番組から、尾崎豊の曲『OH MY LITTLE GIRL』が流れた。4月25日は彼の命日、1992年に26歳で急逝してもう25年が経った。18歳のデビューから10代でリリースした作品には、大人社会や管理教育への反抗と世の中への不信を訴え、「夢、愛、自由」を無二のものとして、いかに生きるべきかを探し続けている自分を歌に込めた。

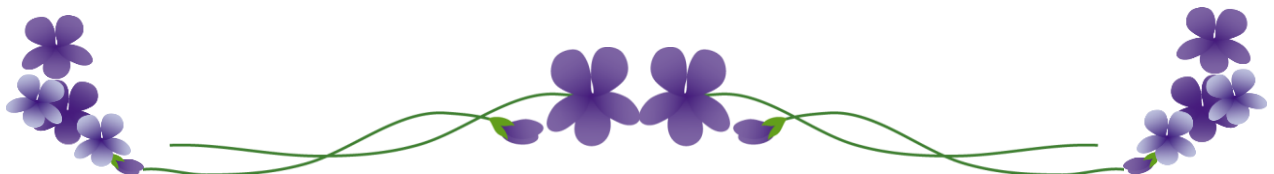
没後3年が経った頃、彼の曲に出会った私は、当時、自分の生き方や心のありかがわからなかったこともあり、彼の痛々しいほどの言葉で綴られた曲、自分の弱さもさらけ出した歌に感慨にふけた。30代半ばを過ぎた私には、彼が叫んでいる「自由」が、社会の決まりごとや規範などから開放される「自由(リバティー)」であることを理解し、そして、もう一つの「自由(フリーダム…精神の自由)」——自分のことは自分で決める、決めたことへの責任は引き受ける——にも気づき、もがいている尾崎がいるのもわかった。

楽曲の中には、人がどのように自分を見ているのか、人の思惑を気にしたり顔色をうかがったりしている自分を描いたフレーズも多くみられている。対人関係や他者との関係の中で、それまでの自分の価値観(親や周囲からの期待や価値観)を一度リセットし、自問自答しているのが見られる。『シェリー』の歌詞には、「俺はうまく笑えているか。俺の笑顔は卑屈じゃないかい。俺は誤解されてはいないかい。俺に愛される資格はあるか」と歌い、自分の個を自覚し、一貫性のある自己を確立しようとしている。それほどまでに真剣に追求しなくてもいいのかもしれない、触れずに現状に適応してトラブルなく過ごせばいいのかもしれないが、彼は自分に正直に生きた。

今年も4月初めに法人・新任職員研修会があり、私から新規採用職員たちに、福祉の仕事は、まずは人間理解(自己理解・他者理解)——自分も相手も肯定する対人関係・生き方——が重要であると話をした。その際に、自己肯定感・自尊感情はどこからきているのかを、精神分析のフロイトの「イド・自我・超自我」や、エリクソンの発達段階における「アイデンティティの確立」の話もした。尾崎の楽曲はまさしく青年期における自我の葛藤、アイデンティティ確立の葛藤を歌いあげたものである。

新年度がスタートして2ヶ月が経過した。4月に大きく環境が変わった人、新しい人を迎え入れて集団・組織に化学変化が生じたところ…、それぞれの職場でいろいろな変化が生じ、職員間のコミュニケーションがとれていないのに気づいたり、職場そのものが居心地悪かったり、先の見通しが立たずにイライラしていたり、そして忙しさの中で自分を見失いそうになったりしているかもしれない。人間関係でつまずいた時、何もかもがうまくいかないと思いついた時には、尾崎の楽曲に向き合ってみるのも一つである。本当に自分にとって大切なものはなんなのか、心がざわめいている理由がなんなのかに気づけると思う。

尾崎が生きていたら今年、52歳になっている。半世紀生きた中で、彼は何を歌っただろうか。



地域で暮らす、地域とつながる

居住支援ユニットリエゾン

私は、9年前に小規模事業担当（「なごみの家」「やはたハウス」「RENGA」）として八幡町に赴任した時に、地域とつながる取り組みを持続的に行っていこうと決めました。

グループホームやショートステイは24時間365日、ご利用者の生活を支援する事業であり、また小規模で職員数も少ないことから、ご利用者や職員が地域の皆さんと接点を多く持つ機会があり、日頃から八幡町には「グループホームやショートステイ」があるということを知ってもらっておくことが必要だと考えてのことでした。

実際、ご利用者が日々生活されている中で、何軒ものコンビニやドラッグストアで店員の方と交流が広がり、支払いの際の現金の出し入れを支援していただくなど理解者も増えています。

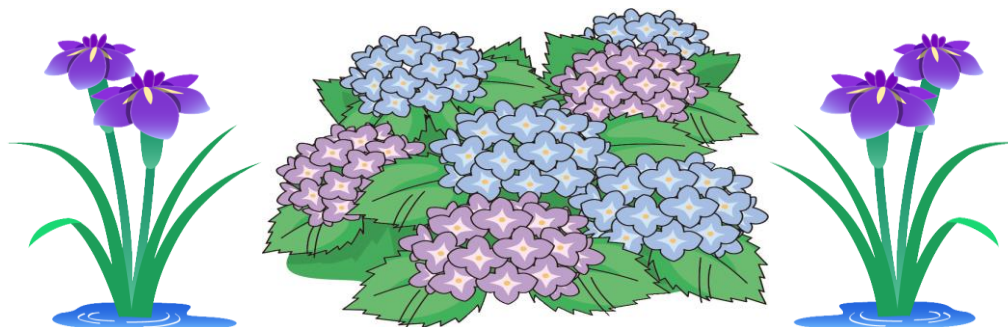
私が千川地域福祉活動推進協議会へ参加し、地域で活動している皆さんに、八幡町にあるグループホームで暮らしている方がいること、そしてどんな暮らしをしているのか知っていただくことで、地域での見守りのネットワークが広がっていくと良いと感じてきました。そして、昨年、地域の方から声をかけていただき、千川地域防災会の事務局員として会に参加することになりました。

当時からグループホームが3カ所増えてようやく正規職員も配置できるようになり、今年からは千川地域社協、グループホームくすの木のある桜野地域社協にも若手職員を参加させることができるようになりました。今後も、地域とのつながりを強めていきたいと思います。（施設長 土橋 誠人）

《4月、5月の参加状況》

- 4月25日 千川地域福祉活動推進協議会
- 4月28日 千川地域防災会役員会
- 5月12日 桜野地域社協総会
- 5月26日 千川地域防災会総会

年度の始まりに地域の方と顔を合わせる大変良い機会となると同時に、それぞれの活動報告や近況をお聞きすることができました。地域住民の方、民生委員の方、学校教育関係の方、社会福祉協議会の方、福祉団体の方など様々な角度で地域を支え、盛り上げている事が分かります。その中で、社会福祉法人の立場で地域にどのような貢献ができるのかを考えさせられる時間でもありました。なごみの家として自己紹介をする場面で、普段、利用者と近所を散歩する際にいただく暖かな眼差しに対し感謝を述べました。地域の方々に、なごみの家のような存在があるということを知っていただくことが我々の役割としての第一歩になると考えます。毎年9月になると行われている、千川地域社協福祉まつりでは実行委員として地域のみなさんと一緒になって防災について考える機会があります。地域の中で大規模災害が発生した際に、互いに助け合える関係であるためには、普段から地域に出て顔を合わせる事が大切です。ソーシャルキャピタルの視点に立ち地域との関わりを結ぶことが福祉をリードしていく社会福祉法人としての役割であり、地域を支える意識を持ち、良い関係で地域の方々と共に地域を盛り上げ、支えていく事を目指していきたいと思いました。（なごみの家 大沢 昌之）



4月25日(火)

みんなで作ろう『こいのぼり』

5月のこどもの日を前に、ウィズの子どもたちは、大きなこいのぼりを作りました。

赤と青の絵の具を両手いっぱいにつけて、ペタペタペタペタと自由に色をつけていきます。手に絵の具が付くのが苦手なお友だちは、シールのうろこをペッタンコと貼りました。見る見る間に、真っ白のこいのぼりが、赤いお母さん鯉に大変身です。みんなによく見えるように、活動室に飾りました。

4月に入園した年少さんのお友だちは、今回が初めてのフィンガーペインティングです。これから、ウィズで楽しいことをたくさん探していきましょう。
(鎌倉 香苗)

こども発達支援室ウィズ



5月15日(月)

講習会開催

武蔵野市障害者福祉センターでは、市内在住で、障害をお持ちの方々を対象とした講習会を実施しております。今は、「椅子に座って健康体操」「卓球」「太極拳」「健康マージャン入門」「書道」「うたの教室」です。後半には「マジック入門」「将棋」「うどん作り」、総合体育館やプレイスで「エアロビクス」「サルサダンス」「ボルダリング」と続きます。皆さんとても意欲的で、「卓球」では講師の先生がお宅で開かれているレッスンにも申し込まれたり、「うたの教室」では曲目を増やして欲しいとリクエストがあったり…私もそんな皆さんを見習って、色々な事に挑戦したいと思っております。
(増川 聡美)

武蔵野市障害者福祉センター



5月19日(金)

気分はパティシエ

大地では、ご利用者の興味や関心事について追求していき、仲間や地域住民と自信を持って関わることを目的とし、活動プログラムの柱としています。月に1度の「お菓子作り」においてもその要素を汲み込んでいます。レシピ決めの際には、利用者の希望に沿ったお菓子を選び、買い出しや調理、振り返りと想いや考えが「カタチ」として残るような取り組みを心掛けています。今後ご利用者の気持ちを尊重し、多岐にわたって活動展開をしていきたいと考えています。
(松下 真也)

ワークセンター大地



5月22日(月)

友好都市特産品販売

さくらの満開時期が長かった今年の4月、おかげさまでさくらごはんもオープンより3周年を迎えることができました。お客様に好評をいただいているメニューの他、お土産コーナーとして友好都市の特産品販売も盛り上がっています。

各友好都市の厳選した品々が鮮やかに飾られている催事エリアは、単なる販売スペースにならないようレイアウトを工夫しています。ご利用者と職員がチームを組んで、手前に手に取りやすい小物、奥には目立つボトルなどを配置、さらに友好都市のポスターも上手く使ってお客様に伝わりやすく仕上げました。商品陳列経験のある利用者のアイデアと職員のサポート、それぞれの知恵と経験が生かされ、販売の方も好調です。

(小川 託矢)

5月22日(月)

ひょうたん花壇 土壌改良

ゆとりえは開設して21年が経過しようとしています。庭のハンカチの木も高木となり、毎年多くの花(白い苞葉)をつけています。

花木の手入れをしているボランティアさんにとっての悩みは、樹木が大きくなりすぎ雑草も生い茂って手に負えなくなっていることと、花壇の土壌が弱くなって新しい花苗が育たなくなったことです。

ガーデンプランナーの助言を得て、新しい植栽ボランティアさんの力も借りて、まずは「ひょうたん花壇」の土壌改良から始めることになりました。また、近くにある苗木畑公園の園芸ボランティアさんからは腐葉土の提供があり、これから園庭の改良工事が少しずつ始まります。

(小松 里絵)

さくらごはん



ゆとりえ特別養護老人ホーム



事務局より 6月の予定

2日(金) 施設長会議
20日(火) 誰でも相談室
24日(土) 全館清掃(障害者総合センター)

28日(水) 実践発表会抄録提出締切
30日(金) 経営企画会議

<編集後記>

早いもので、新年度から2か月が過ぎました。新入職員の方や移動された職員の方は、新しい環境での仕事にも慣れていらしたでしょうか。今号は武蔵野日記編集委員の新メンバーでの、初めての発行となります。今年度も、各セクションの活動が反映できる武蔵野日記になるよう努めてまいります。

桜堤ケアハウス在宅介護支援センター 榎戸寿美子

